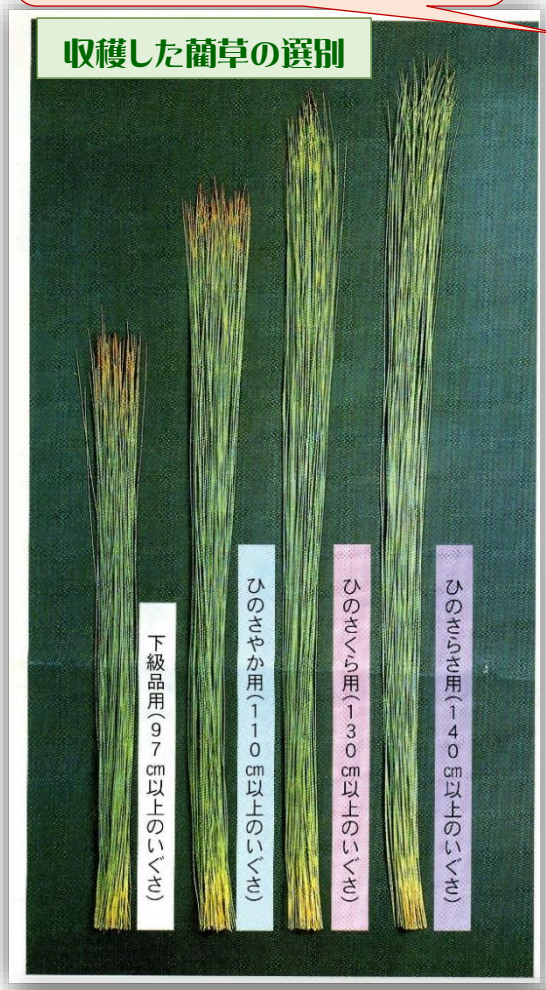
畳表と藺草農家（たたみおもて　いぐさのうか）

畳表の生産工程ですが、原料となる藺草は農家が生産しています。12月頃に藺草の株を水田に植え、追肥や先狩りをしてネットを張り初夏に畳表の原料となる藺草を収穫します。
また、畳表の生産ですが　ほとんどの場合、藺草を生産している農家が収穫した藺草を原料として自ら畳表の製織に当たります。　つまり、藺草生産農家は原料の藺草から畳表の製織まで同一農家が行っています。ですから、畳表の製織は農作業の合間に行われるもので、農家は畳表を生製織できない時期も出てきます。
中でも「ひのさらさ」「ひのさくら」などの極上品は、製織する技術を備える農家も少なく、農繁期には製品が入手できないなどの事態も毎年ございます。天然物でもありグレードのあるものなので、消費者の皆様にはご理解をいただければ幸いでございます。



いぐさ・畳表のできるまで

KUMAMOTO TATAMI OMOTE manufacturing process

1 苗掘り

8月に畑（苗床）に植え付けられた苗を掘り出し水田苗床へ植付け育苗します。それを11月下旬に掘り出し、本田植え付け株用に根切り、株分けの調整をします。

2 植え付け

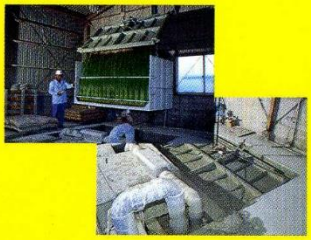
調整された苗は、12月上旬からいぐさ移植機で植え付けます。

3 先刈り

5月上旬ごろ、根元まで日光が当たるよういぐさの先端を刈り払って、新芽の発芽を促します。（収穫45日前頃に出る芽が長くて高品質のいぐさになります）

4 収穫

6月下旬から7月中旬にかけ、成育の良い充実したいぐさを刈り取ります。刈り取り時間帯は、気温が高くない、早朝や夕方です。

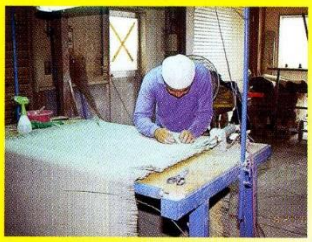


5 泥染め

刈り取られたいぐさは、その日のうちにいぐさ独特の色、香り、光沢を出すため、天然染土を使って泥染めを行います。その後、乾燥機で乾燥させます。

6 製織

乾燥されたいぐさは、長さごとに選別し、傷、太さのチェックをして一枚一枚畳表に織り上げていきます。



7 仕上げ

製織された畳表は、一枚一枚織り傷がないかなどをチェックする仕上げを行います。

8 出荷

製品に対する責任表示を明確にするために、生産者番号を表示するステッカーをつけて、全国に出荷されています。

たたみ工房さいとう